

# 学校法人 東京滋慶学園 東京バイオテクノロジー専門学校 学校関係者評価委員会 会議資料

【2022年5月25日実施】

## 2021年度自己点検自己評価(2021年4月1日～2022年3月31日)による

大項目	点検・評価項目	自己評価		自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評価		学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1				優れている…3 適切…2 改善が必要…1		
1 育成人材像 教育 理念	1-1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか	3		<p>学校運営にあたり、一番大切にしているのが、ミッションと理念である。これを基に、作成している事業計画があるからこそ、健全な学校運営ができています。事業計画で考える中期計画は、学校の未来を表現したものであり、そこで考えられた組織目的、運営方針、実行方針、実行計画が学校の成長につながってきた。</p> <p>また理念、経営者の言葉、学校の考え方や組織文化を、さまざまな形で文書化し、組織内に浸透させるとともに、新たに組織に入ってくる人にも外部にもわかりやすく示していくことによりかなりの力を使っている。このことが、学園、学校の活性化につながっていると考える。</p> <p>将来像を、事業計画とカリキュラム改定案にしっかりと明文化している。</p>	<p>理念・目的・育成人材像を明確に定めており、各会議、研修等で広く周知を図っている。</p> <p>また業界ニーズの変化をいち早く吸い上げ、それに応えるカリキュラムの構築も行なっている。</p> <p>養成目的:卒業後およそ3年(または業界から求められる人材像)の姿 教育目標:卒業時の到達像</p>	3.0		<p>(森 委員) 学校運営にあたりミッションと理念を大切に、さらに健全が出来るように事業計画もされています。</p> <p>計画にそった人材の育成に取り組み、就職の内定率が100%しかも学校で学んだ専門分野での就職率が90%を超える成果は評価できます。</p> <p>中途退学者の“0”を目指した取り組みに期待しています。</p> <p>(吉岡委員) 学校のグランドデザインがミッションと理念を基盤として形成されている。</p> <p>1.アドミッションポリシー 2.カリキュラムポリシー 3.ディプロマポリシーが体系的・系統的に1枚もので表されていると更によい。</p> <p>(加世田委員) キャリア教育は大事です。十分に行っていると思います。</p> <p>(有賀委員) 「今日も笑顔であいさつを」は社会で生きていくためにもっとも大切なことだと感じます。</p> <p>(池田委員) 素晴らしいと思います。</p>
	1-1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか							
	1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか							
	1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか							
2 学校運営	2-2 運営方針は定められているか	3		<p>法人としては、事業計画・運営方針を定めることを最も重要視している。</p> <p>明文化、文章化され定められた事業計画・運営方針を基に、学校運営に関わる全ての人に周知徹底すること、そして、共感してもらうことに、年間通じ力を入れている。それは、各種の研修(教職員・講師)、会議(運営会議(広報会議・教務会議)・教務委員会・広報委員会等)、部署会議)で行い、全教員が納得して学校運営に携わる環境作りをしている。このことが、学校・学科の教育成果に繋がっていると考えている。常に市場ニーズに対応した事業計画・運営方針をこれからも作成するように努める。</p>	<p>事業計画の構成</p> <p>①組織目的(普遍的に学校が目指す開校、組織運営の目的)</p> <p>②運営方針(中期的に組織として目指していく方針)</p> <p>③実行方針(中期的な組織の運営方針を実現するための単年度の方針)</p> <p>④定量目標(受験者、教育成果(中途退学防止、欠席率、資格取得数、就職率、専門就職率等)</p> <p>⑤定性目標(人材育成や組織あり方等定性的な目標についての単年度目標)</p> <p>⑥実行計画(その方針を実現するための詳細な計画)</p> <p>⑦組織図(単年度)⑧職務分掌</p> <p>⑨部署ごとの計画及びスケジュール</p> <p>⑩職員の業績評価システム</p> <p>⑪意思決定システム</p> <p>⑫収支予算書(5か年計画) など</p>	3.0		<p>(森 委員) (滋慶学園として全体の運営方針及び事業計画が明確に示されており、さらに設置された学校の執行責任者が組織目的・運営方針・実行方針・定量目標や収支予算5か年計画を的確に実行されています。</p> <p>また意思の確認においても、各種研修・会議において全教職員が納得した環境の整備が進んでいます。</p> <p>(吉岡委員) 多面的評価を実施しており、評価の客観性が担保されている。学校として最も大切な人材育成に妥協なき姿勢が見える。</p> <p>(加世田委員) 全体の収支計画を制作する。情報の共有化は、運営上必要です。</p> <p>(池田委員) 部下をお持ちの管理職には必要により、360度評価等も意義があると思う。</p>
	2-3 事業計画は定められているか	3		<p>法人としては、事業計画・運営方針を定めることを最も重要視している。すべての元になる事業計画作成にはかなりの時間をかけており、学校で作成したものは、エリアの長、学園の執行部により確認、チェックを受け初めて実行に移される。</p>	<p>年度初めのスタート研修から事業計画を全員で共有している。運営会議・全体会で計画遂行の確認をとり実行している。今後は問題点を早期に発見し、対策を立て、実行するプロセスを徹底していきたい。</p>			
	2-4-1 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか	3		<p>意思決定に関しては、重要事項の優先順位と対応する機関が明確である。毎年事業計画策定という厳しい作業があることで、目標志向性の高い組織運営が行われている。</p>	<p>学校運営をマネジメントシステムの計画と実行として捉え、マネジメントスキル、知識、そしてリーダーとしての研修を重視している。マネージャーは組織運営者であることを念頭に人材育成の一環として運営を行っている。</p> <p>事業計画を教職員が自立的に計画し決定し全員で共有する。その上で職場運営が実行に移されていく。計画遂行の確認のため、問題点を早期に発見し、対策を立て、実行するプロセスを徹底していきたい。</p>			
	2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか	3		<p>採用計画と人材育成のための研修は、システムとして確立され、有効に機能している。採用にあたっては、学園本部が中心となり、採用広報や、採用試験を実施している。採用は採用基準の基、厳正に実施している。また、その後の教職員の育成には、もっとも力を入れている。</p> <p>そして、目標管理制度に基づき、成果に応じた人事や賃金決定が行われている。</p>	<p>数字目標を達成する過程の業務や、数字だけでは評価できない業務(例えば、入学式・卒業式担当、行事担当、学生挨拶推進担当、清掃運動担当など)も過程を評価できるようプロセス評価を導入している。</p> <p>また、職員の職場に関するアンケートも実施。理念、目標の理解度や、職場満足度、各自の希望などの項目でアンケートを取り、その結果を受けての、職場環境の改善にも着手している。</p>			
	2-5 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか	3		<p>事業計画・運営方針を周知・共感してもらうことに、年間通じ力を入れている。それは、各種の研修(教職員・講師)、会議(全体会議、運営会議(広報会議・教務会議)・部署会議・委員会等)で行い、全教員が納得して学校運営に携わる環境作りをしている。このことが、学校・学科の教育成果に繋がっていると考えている。常に市場ニーズに対応した事業計画・運営方針をこれからも作成するように努める。</p>	<p>会議の議事録にルールを設けている。</p> <p>①主要な会議の議事録は次の日までに出席者全員に配布する。</p> <p>②議事録のフォーマットがあり、項目の中の「決定事項」に、アクションプラン(決定事項の次の担当責任者、行動、目標、期限などが)明示されている。</p> <p>③議事録の保管は理事会、評議員会の議事録は法人本部 戦略会議、全体会議、運営会議の議事録は学生サービスセンターで行っている。</p>			
2-6 意思決定システムは確立されているか	3							

学校法人 東京滋慶学園 東京バイオテクノロジー専門学校 学校関係者評価委員会 会議資料

【2022年5月25日実施】

2021年度自己点検自己評価(2021年4月1日～2022年3月31日)による

大項目	点検・評価項目	自己評価		自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評価		学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1				優れている…3 適切…2 改善が必要…1		
	2-7 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3		個別ごとのセクションの情報システム化、その結果としての業務の効率化は推進されていると考えている。それは、業務のマニュアル化とシステム化が推進されたことと、法人内のコンピュータ関連会社の協力で、情報の一元化に成果が現れてきたことによる。ここで重要なことは、何のための情報システム化をしているのかという点である。入学前、在籍中、卒業後の流れの教育システムの中で、学生一人ひとりの情報を一元管理し、学生の様々な支援(進路決定、就職支援、学費相談等)の際に、その情報を活かし、適切な助言ができることで、専門就職への内定獲得や資格合格に結びつけることである。また、業務の効率化により、教職員が直接学生と接する時間を多くすることが可能になった。	システムは、①学籍簿管理 ②時間割管理 ③成績・出席管理 ④学費管理 ⑤入学希望者及び入学管理 ⑥各種証明書管理 ⑦求人企業管理 ⑧就職管理 ⑨卒業生管理 ⑩学校会計システム ⑪人事・給与システム ⑫ファームバンクシステム ⑬研修旅行管理システム ⑭寮管理システム ⑮健康管理システム 等により構築されている。特に、学生の教育・就職・学費入金等、学生に関わる情報処理についてはすべて一元化された運営を行っており、学生情報にプレがないようにシステム構築をしている。そのことが、退学防止、就職支援へとつながっている。DXに関しては、学園内でプロジェクトを立ち上げるとともに、学内においても推進リーダーを配置した。具体的にはMicrosoft社Teams (office365) の活用などを積極的に取り入れていきたい。	2の続き 評価は 前ページ に記載 してください。		
3 教育活動	3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	3		各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられている。各学科の教育目標、育成人材像は、常に業界のニーズを反映させるため、業界調査、学科調査、競合校調査を毎年秋季に行い、そこで現れる業界ニーズに確実に応えられる教育目標、育成人材像を設定している。	人材ニーズの変化や業界そのものの変化に伴う学科の養成目的/教育目的の見直しやカリキュラムの再構築のために、教務部長を置いている。教務部長は教育力(1. 計画:カリキュラム 2. 運営:授業 3. 評価:試験フィードバック)向上のための教育改革項目について分析し、改革案を作り、改革実施を評価し、修正提言をする役割を担う。	3.0		
	3-8-2 学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか							
	3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	3		学科の各科目は、MMPプログラムによって、その内容、関連性から適正な位置づけを行うことができている。また、授業アンケートと、オープン授業を通して、授業評価を実施している。授業評価の視点として、受ける学生の視点と、行う講師の視点の2つを重視している。授業アンケートによって学生からの、オープン授業によって講師からの授業評価を行っている。	アンケート内容は下記の4項目に自由意見を加えた形式としている。 ①板書は読みやすい…1、とても読みやすい 2、読みやすい 3、普通 4、読みにくいことがあった 5、いつも読みにくい ②話は聞き取りやすい…1、とても聞き取りやすい 2、聞き取りやすい 3、普通 4、聞き取りにくいことがあった 5、いつも聞き取りにくい ③授業は理解できる(分かりやすい)…1、とてもわかりやすい 2、わかりやすい 3、普通 4、わかりにくいことがあった 5、いつもわかりにくい ④授業は興味もてる(おもしろい)…1、とても興味もてる 2、興味もてる 3、普通 4、興味もてないことがあった 5、いつも興味もてない			
	3-9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか							
	3-9-3 キャリア教育を実施しているか							
	3-9-4 授業評価を実施しているか							
	3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	2		成績評価と単位認定の基準は、学則施行細則はもとより、「教育指導要領」及び「学生便覧」にしっかりと明記し、職員や講師、学生に周知徹底している。また、それらに基づき学生指導・支援にあたっている。2010年の学則より教科課程に単位制・GPAを取り入れている。	授業履修時間も含めて、基準の遵守は徹底している。卒業・進級判定会議を開催し学校長の承認を経ている。			
	3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか							
	3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	2		資格取得のための指導体制としては、対在学生、対卒業生ともにシステムとして形になってきている。在学時の通常授業に受験対策を盛り込んでいると共に、卒業生に対しても状況提供や一部合格までのフォローが十分とはいえない。目標に達していない一部の資格に対して、今後合格率を向上させるための更なる対策を講じていく必要がある。	資格によっては、通常授業の中に対策講座を入れている。また、別に特別対策講座を実施している。さらに、オンデマンド動画とGoogle Foamを用いた問題演習を実施している。			
	3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか							
3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか	3		学科の育成目標を達成するために、講師がその分野のスペシャリストであること、また、同時に講師要件を満たしていることを講師採用において重点を置いている。採用決定の講師は、講師会議、科目連絡会を通して、授業運営に対する情報の共有化、成功事例の共有、また、学校側の考え、希望する方向性、養成したい学生像を共有し、問題・情報の共有、解決につなげている。	産学連携企業のネットワークや各種業界団体、同窓会ネットワークをいかし、交流を図っている。また、その情報から卒業生講師や外部講師を採用している。				
3-12-2 教員の資質向上への取組みを行っているか								
3-12-3 教員の組織体制を整備しているか								

(森 委員)  
建学の理念にそった教育課程・さらに授業編成をしつつも、業界の人材ニーズの動向を調査し、求められる人材の育成に励んでいます。専門知識を得た学生が専門分野での業界就職率の高さがそれを証明しています。これは高い評価と言えます。専門学校に限らず、この2年間はコロナ感染拡大の影響で学校に登校しての対面授業・実習や研究の時間の確保が難しく、リモート授業などの苦勞があったかと思われまます。登校しなかった期間の長さが、中途退学者の増加を呼びます。また学習時間(対面授業)の少なさは学習意欲と理解力の不足が発生しますから、資格試験の合格率の減少も考えられますので、さらなる工夫を期待しています。

(吉岡委員)  
教科横断的な授業実践に取り組んでいる。社会に開かれた教育課程で学生の興味、関心を高め、主体的な学びにつなげている。授業環境と地域連携の視点からも評価を行ってもよい。

(加世田委員)  
長期インターンシップ完成品までの製作、コミュニケーション、産学連携生徒がやる気が起きると思っています。

(有賀委員)  
企業は即戦力を求めることが多いです。インターンシップ制度の充実は、企業人としての成長もできるので、とてもよいと思います。コミュニケーションは基本です。取り組みがよく分かります。

(阿部委員)  
企業との実践的な教育がよい。

# 学校法人 東京滋慶学園 東京バイオテクノロジー専門学校 学校関係者評価委員会 会議資料

【2022年5月25日実施】

## 2021年度自己点検自己評価(2021年4月1日～2022年3月31日)による

大項目	点検・評価項目	自己評価		特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評価	
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1	自己点検・自己評価項目総括		優れている…3 適切…2 改善が必要…1	学校関係者評価委員よりの御意見
4 教育 成果	4-13 就職率(卒業生就職率・求職者 就職率・専門就職率)の向上が 図られているか	3	就職率に関しては開校以来90%以上を維持できている。 高めた目標である就職希望者(就職希望者/卒業年次在籍者)と専門就職率 も共に90%を超える数値で、高い水準を満たしている。 これらはキャリアセンターと学科が、年度当初の目標設定から学生の内定 獲得まで、常に連携しながら活動をしている成果である。	キャリアセンター…就職に関する相談室を「キャリアセンター」という名称で 設置している。キャリアセンターの目的は ①入学希望者に卒業後の就職イメージを持ってもらう:入学希望者には、具 体的な仕事の内容を理解してもらい、安心して学校を選んでもらえるように する。 ②在校生に対しての就職支援:在校生には面接時におけるスキルアップ指 導や、筆記試験対策の実施等をサポートし、プロ意識を養い育てていく。 ③同窓生(卒業生)のキャリアアップ支援:卒業後の同窓生には就職した後 にさらなるキャリアアップを考え、マネジメントやコーチング などの実務レベ ルのスキルアップや、再就職支援を実施している。	3.0	(森 委員) キャリアセンターの活用で高い就職率の維持がなされています。 また卒業生の活躍も業界・学会から研究成果を受賞するなど教育成果は向上 しています。 記念にいただいた、東京都産のいや東京バイオ産の“日本酒”はもっとPRすべ き成果だと思えます。
	4-14 資格取得率の向上が図られてい るか	2	各学科で資格取得の目標を達成するために、対策を立て、実行している。 一部資格では、学内で講座を実施し、受験が可能なものもある。 それらも含め、すべてに100%を目指し、対策講座の実施等を行っている。	「実験動物1級技術者認定試験」(専門学校初)、「細胞培養士コースⅠ」 は、専門的な技術を取得できる資格として、学生のモチベーションを高める 資格の一つとなっている。 また、新たな資格として、「フードアナリスト4級」「品質検定4級」の導入をし た。また、在学中に化学分析技能士2級を取得できるようになった。		(吉岡委員) 卒業後、社会人の像を示し、教育活動を継続している。 新入生は卒業生の活躍度に影響を受けやすいため、卒業生とのつながりは強 めた方がよい。
	4-15 卒業生・在校生の社会的な活躍 及び評価を把握しているか	3	卒業生の社会での活躍は年々大きくなってきている。 大きなプロジェクトの参画から、学会での各章受賞など、学生時代に習得し た知識・技術を活かして成果を挙げている。卒業生の活躍は求人票の多さ にも現れている。 在校生は、実習活動や卒業研究を通して社会で活躍している。 今後は卒 業生の活動を確実に学校として把握することと、在校生の活躍の場を広げ ていく取り組みが必要と考える。	まずは、学校からの発信が大事になってくるため、SNSなども活用し、学校 情報、分野別講座の案内など、できるだけ目に触れてもらえるような環境作 りや、卒業生との繋がりを持てる土台作りができた。		(加世田委員) 卒業生とのつながりは、いいと感じます。
5 学生 支援	5-16 就職に関する体制は整備されて いるか	3	ここ10年ほど、就職希望者内定者100%他の実績で表されているように、 就職指導体制は高いレベルであると思われる。特に、バイオ系の分野は一 般の求人にも乗りにくい世界であるために、求人確保できる仕組み、合格で きる仕組みが機能していると思われる。	11月 就職決起大会・模擬面接会・業界模擬面接会 2月・3月 学内説明会以降は個別活動	2.7	(有賀委員) 興味ある成果が多くあり、充実を感じました。
	5-17 退学率の低減が図られているか	3	いままでのアプローチでは十分な対策となっていないと全員が理解し取り組 まなくてはならない。ここ2年の進路意識欠如(目的意識不足)や学生の抱え る固有の問題(精神疾患や発達に関する事案)を抱えているケースの退学 者増に対する対応に取り組む必要がある。	年々、学力差、志望動機、留学生等、入学者が多様化している。常に、現状 分析をしながら改善策を考え実行している。		(池田委員) 就職率の高さは素晴らしい。 また、資格取得は、高専卒の学生との差別化になると思うので、今後も力を入 れて頂きたい。
	5-18-1 学生相談に関する体制は整備さ れているか	3	学生相談室を設置し、①精神面②学費③健康面などの相談をいつでも受け 入れる体制は既に整備されているがそこで十分にはなっていない。	教職員全員が、カウンセリングマインドを持ち学生支援を行えるよう研修会 &カウンセリング資格制度を実施しているが、多様な学生に十分対応でき ているとは言えない。今まで以上に各メンバーの対応力を上げる必要がある。		(森 委員) 研究や授業の対応に比べると学生に対する支援が遅れているように感じます。 例えば精神的に悩みがあったり、身体的な病気があった場合に滋慶学園グ ループとして西葛西のクリニックは整備されていますが、距離的な異動はいか がでしょうか。 研究に没頭するがために、心のケアはさらに重要になってくると思われま す。
	5-18-2 留学生に対する相談体制を整備 しているか					
	5-19-1 学生の経済的側面に対する支 援体制は整備されているか	2	学生の経済的側面の支援は、フィナンシャルアドバイザーによる学費相談会 の実施によって、事前に学費相談を受けられ、資金のやり取りをアドバイス できている。参加する保護者も多く、相談内容が難しくなっているため、その 対応をする担当者もスキルアップが必要と考える。「慶生会クリニック」や「滋 慶トータルサポートセンター」が学生の体と精神面の健康管理をしており、学 生の健康管理を担う組織体制は確立されている。 一人暮らしをする学生についても、学生寮や生活アドバイザーが学生の生 活面を見ている。どの組織も学校と(特に担任)連携を取り、学生の変化など には気を配り注意している。	公的奨学金の他に学園独自の奨学金を用意している。経済的理由による退 学や休学になることを、極力防ぎたいという学園の考えから、状況に応じて 学費の分納・延納に下関する相談にも応じている。 災害に際しても公的奨学金への案内はもちろん、学校独自のものも随時 設定している。奨学金(分納)希望の学生、保護者に対して、奨学金の返還 を含めて、一人ひとりと面談を実施し、保護者からの理解も得る事ができ るよう働きかける共に、各説明会の際には、返還の重要性も伝えている。		(吉岡委員) 多様な生徒の在籍がありながら、きめ細やかな体制整備を行っている。 早期発見・早期対応により退学率の低い学校を目指していくべきである。
	5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整 備しているか					
	5-19-3 学生寮の設置など生活環境支 援体制を整備しているか					
	5-19-4 課外活動に対する支援体制は 整備されているか					
5-20 保護者との連携体制を構築して いるか	2	専門学校の大きな特色のひとつに担任制があるが、欠席等に対して担任は 保護者と連携をして、学修継続への体制を築いている。	入学前に保護者会を開催し、保護者との連携が必要であることを告知。更 に、希望者には保護者面談期間を設けて個別に対応することで、学校と保 護者の両面から学生一人ひとりを支援していく事を伝えている。	(加世田委員) スクールカウンセリング、今回のコロナ禍においては重要です。通常時に必要 なものです。		
5-21-1 卒業生への支援体制はあるか	2	卒後の就職や転職の支援は整備されている。また、教育支援プログラムは 年々多くしているが、まだまだ十分とはいえない。 また、同窓会組織を使ったネットワーク作りは、今後その業界に卒業生を送 り込む学校として大変重要だと考える。 同窓会を組織し、その繋がりで求人を探し、実習を受け入れてもらうなど多 くの成果が表れてきている。 また近年、業界で実際に働いている卒業生をアシスタントとしても採用し、在 校生にとっては何年後かの自分をダブらせ大きな目標にもなっている。	キャリアセンターを中心に就職先訪問を行い、定期的に卒業生の状況を把 握している。	(有賀委員) カウンセリングから就職までの充実したフォローができていますと感じます。		
5-21-2 産学連携による卒業後の再教育 プログラムの開発・実施に取組 んでいるか						
5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育 環境を整備しているか						

# 学校法人 東京滋慶学園 東京バイオテクノロジー専門学校 学校関係者評価委員会 会議資料

【2022年5月25日実施】

## 2021年度自己点検自己評価(2021年4月1日～2022年3月31日)による

大項目	点検・評価項目	自己評価		自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評価		学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1				優れている…3 適切…2 改善が必要…1		
6 教育環境	6-22 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	2		実習授業に力を入れている本校にとって、学内実習室が実際の現場で使われている設備を揃えていることが、必要不可欠である。実践教育のための学内施設、設備はかなり高いレベルで整備されていると考えている。	スペシャリストとしての技術を磨くための最新施設や機器を完備し、プロの現場と同じ器具、同じ環境で実習授業を受けることで、学生の学習意欲を喚起し、専門就職、資格合格率向上につなげる。授業以外でも、個別の課題に取り組む環境を用意している。	2.8		(森 委員) 将来は校舎を統合して、別な場所での環境整備計画も聴きましたが、現在の環境では授業の影響はなくても授業の合間の空間が必要だと思います。出来れば校舎の外に出たなら、空を見上げ周りの緑を眺められる環境が良いですね。現在の場所だと大規模な火災や地震の対応に不安が残ります。
	6-23 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	3		学外実習・インターンシップ・海外研修を行うことで、学園の理念である「実学教育」「人間教育」「国際教育」の全てと関わることになり、その教育効果は大きいものと考えている。	インターンシップに関しては、4年生は100%業界に絡むことが達成できた。海外研修に関しては、コロナウイルスの関係もあり海外は延期となったが、代替プログラムとして3か国の各機関とオンラインにて中継をつないだ「国内国際性教育プログラム」を実施した。			(吉岡委員) バイオテクノロジーの世界も日進月歩であり、施設・設備・備品の更新は欠かせない。経費の問題もあるが、将来性のあるバイオ技術を身に纏うことは大きな武器となる。
	6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	3		現状、災害時の最低限の準備と学生への動機付け、そして救急時における知識の取得と意識付けは十分に出来ていると考えている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災訓練の映像化(DVD)がされており、学生・教職員・講師全員が視聴し、防災の意識を高めている。</li> <li>・AEDの設置</li> <li>校舎入り口にシールを貼り、設置を知らせているので近隣の方々にも緊急の際使用できるようにしている。</li> <li>・警備システムの変更や各校舎に防犯カメラを設置し、テロ等に利用されることのない様、配慮も加えた。</li> </ul>			(加世田委員) Teams、必要に応じての変化は大切な事です。 (有賀委員) コロナ禍で、学生のための配慮がされていると感じました。
	6-24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか							(池田委員) 簡単ではないかと思うが、例えばNHKのビジネス会話等を利用し、ラジオなら15分で勉強できます。かなり実践的なので、毎日勉強すれば、3～4年でかなり英語力がアップすると思う。
7 学生の募集と受け入れ	7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか	3		学生募集活動は、学則を基に、その年の入学案内、募集要項の通り、適正に行われていると考えている。	コロナ禍になり、情勢に合わせて柔軟にオープンキャンパスを開催。そして、早期出願者に対し、出願時のモチベーションを入学時まで維持できるよう「プレレレッジ(入学前教育)」を実施している。	3.0		(森 委員) コロナの影響が残る中でも、充実したオープンキャンパスの様子は学生が生き生きとした印象が素敵でした。この実験を各高等学校の授業や文化祭・カルチャー講座で出前授業で行うとさらに宣伝効果が上ると思います。
	7-25-2 学生募集活動は、適正に行われているか							
	7-26-1 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	3		学則を基にし、募集要項で明記した入学選考方法通り選考をしている。選考に関しては、将来の希望分野への適性をきちんと見極めるため、面接の比重を多くしている。結果として、学力のみにとらわれない、モチベーションの高い学生確保に役立っている。	入学選考基準については、目指す仕事に対する「目的意識」と「適性」を基準としている。入学者の事前データを基にクラス編成の参考にし、学生指導に活用している。			(吉岡委員) 地球温暖化問題により、石化事業に厳しい目が向けられる中、「バイオナフサ」という言葉があるよう、これから注目される知識、技術がバイオテクノロジーと推測される。化学メーカーとのつながりができると生徒募集には更に良い。
	7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか							(加世田委員) オープンキャンパスがほぼ毎日開催。デジタル化により、時間に制限されずにできることはすばらしいと思います。
	7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか	3		学納金は適正かつ妥当なものと考えている。また、財務の情報公開も私立学校法の改正の義務づけに合わせて、本校でも平成17年4月1日から法人単位での公開の体制を取っている。学納金が公正に使われているかを世に問うものとなっている。	入学以前の募集要項上において、事前に年間必要額を明示しているため、保護者に関しては年間支出計画が立てやすい。□ また、高等学校在学者に対しても、日本学生支援機構の予約採用のアナウンスや教育ローンの案内をするなど、学費負担者の立場にたつてのアドバイスを実施している。			(有賀委員) オープンキャンパスの回数の多さにびっくりです。実習、個別相談、YouTubeの利用もよいです。
7-27-2 入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱を行っているか	(池田委員) 会議で紹介頂いた卒業生たちの仕事ぶりのビデオ(映像)、もっと幅広い業種・仕事で集め、高校生たちがHP上で見れるようにすると、大変インパクトがあると思う。							
8 財務	8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	3		上記のような体制をとっているため、厳しいチェック及び評価が行われ、いわゆる債務超過になったり、資金不足になったりする状況にはなっていない。そのため、中長期的には財務基盤は安定し、本校の学校運営も安定していると考えている。	以下のチェック機能がある。 事業計画(財務計画・収支予算書) 1. 学園本部によるチェックと理事会・評議員会による承認 2. 四半期ごとの学園本部によるチェック 3. 修正予算の作成: 学園本部によるチェックと理事会・評議員会による承認 4. 計算書類の作成と学園本部によるチェック 5. 監事および公認会計士による監査 6. 決算書類、事業報告書の理事会・評議員会による承認 内部監査を設置し、第三者視点で厳しくみている。	3.0		(森 委員) 学校法人滋慶学園が中心となり、グループ全体で財務管理がなされています。さらに理事会・評議員委員会が学園全体の運営の中長期計画をしめし、的確な財務分析で予算及び執行がなされていますので財務体制は健全だと高い評価が出来ます。驚くのは当初予算を編成したあと、四半期ごとに予算の実績対比を行い修正予算を組んで、最後に決算に行く流れは他の法人ではなかなかないことだと思います。
	8-28-2 学校及び法人運営に係る主要な財務数値に関する財務分析を行っているか							
	8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	3		予算編成の方法については短期的と中長期的に行っているのが妥当な方法と考えている。5年を見越した中長期的事業計画を毎年立てその中で収支計画を作成しているが、学校、学園本部、理事会・評議員会と複数の目でチェックするためにより現実に即した予算編成になっているものと考えている。学校の財務体制を管理し、健全な学校運営ができるように予算・収支計画は有効かつ妥当な手段として利用されている。	当初予算→四半期予算実績対比→修正予算→決算という流れの中で、収支計画が実現可能なものとなり、財務基盤の強化につながっている点の特徴として挙げられる。			(吉岡委員) 今後、少子高齢化が進む中、財務の健全性は確保していく姿勢が重要となる。学校の方針は良い方向である。
	8-29-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか							(池田委員) 監査がしっかり行われていることも確認しました。
8-30 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか	3		現在のところ、監査報告書は適正な計算書類を作成している旨の意見が述べられており、適正な計算書類を作成しているものと考えている。監査を有効に実施してもらうために、証憑書類の整理、計算書類の整備、各種財務書類の整理整頓に努めている。	監査に関しては、会計監査のみならず、業務監査など近年企業にもとめられている内部監査と同様に実施し、業務内容のチェックを行っている。				
8-31 私立学校法に基づく財務公開体制を整備し、適切に運用しているか	3		財務情報公開の体制整備は平成17年4月1日には終了し、体制整備はできている。学園の特徴は、法改正の変化に迅速に対応できる機動力である。今後ともどんな法改正にも迅速に対応していくと考えている。	4年制学科は職業実践専門課程に認定されており、その規定にのっとり、学校の内容をHP上に公開している。				

学校法人 東京滋慶学園 東京バイオテクノロジー専門学校 学校関係者評価委員会 会議資料

【2022年5月25日実施】

2021年度自己点検自己評価(2021年4月1日～2022年3月31日)による

大項目	点検・評価項目	自己評価		自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評価		学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1				優れている…3 適切…2 改善が必要…1		
9 法令等の遵守	9-32 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	3		法令や設置基準の遵守に対する方針は文章化し、法令や設置基準の遵守に対応する体制作り、整備した。 また、教職員の啓蒙として、法令や設置基準を遵守に対する教育または研修を、リーダーと実務担当者で実施している。 今後も、より改良改善していくこととしている。	(1)組織体制 ①財務情報公開組織体制(あり) ②個人情報管理組織体制(あり) ③地球温暖化防止委員会 ④進路変更委員会 (2)システム ①個人情報管理システム ②建物安全管理システム ③品購入棚卸システム ④コンピュータ管理システム	3.0		(森 委員) 学校運営は(学校)の設置基準を厳格に守り、さらに学生や教職員に関する個人情報の管理も適正に行われています。 また自己評価・自己点検のために学校長・事務教局長・教務部長・各センター長が組織体制・システムを常に管理点検をしていることも高い評価と言えます。  (吉岡委員) HPの学生の表情が良い。日常でのショート記事が掲載されると高校生に学校生活の様子が実感を伴うので、一考を願いたい。  (加世田委員) デジタル社会への対応ができていると考えます。  (池田委員) 成人年齢が18才ということになり、選挙権等が与えられることになりました。改めて、皆さんの自覚を促すような講演等企画されたら良いと思います。
	9-33 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	3		全ての役員・教職員・講師が個人情報に関する法規則を遵守し、個人情報保護に関する基本理念を実践するために「個人情報保護基本規程」を構築し、社会的要請の変化にも着目し、個人情報保護管理体制の継続的改善にも取り組んでいる。 学校という業務上、日々、大量の個人情報を扱っている。その管理においては外部機関の「TRUSTe」より国際規格の認証を獲得し、毎年個人情報保護管理状況についての検定を受け、ライセンスを更新しホームページ上に明記している。また、教職員研修、学生の教育を徹底し、情報漏えいのないよう努めている。	主な事項は以下の通り。 ・適切な個人情報の収集、保管、使用、開示及び提供に関する事項。 ・保管している個人情報の保護・修正・変更に関する事項。 ・対外的な当校の個人情報取扱についての周知、問合せ・苦情受付に関する事項。 ・教職員への教育・研修、周知徹底に関する事項。 個人情報を取り扱う業務の外部委託先については、「選定チェック表」により審査をし、業務委託時には「業務委託契約書」に保護を明記させ「個人情報保護誓約書」を提示させている。 個人情報保護最高責任者資格(認定CPO資格)を取得した職員を配置			
	9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	3		私立専門学校等評価研究機構の基準に準じて自己点検・自己評価を実施しており、結果をホームページ上で公表している。	毎年5月に定められた委員会により、学校全体で取り組んでいる。 参照:自己点検自己評価委員会構成メンバー 学校長 事務局長 教務部長 学生サービスセンター長 キャリアセンター長			
	9-34-2 自己評価結果を公表しているか							
	9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか							
	9-34-4 学校関係者評価結果を公表しているか							
9-35 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	3		教育情報はホームページを中心に公開している。それとともに、保護者向け、学校教職員向け、業界向けに冊子を作成し、公開するとともに、業界団体にも加盟し学校の教育内容の理解をいただくようにしている。	情報公開ページは以下のURLにてこうかしている。 <a href="https://www.bio.ac.jp/school/judgment">https://www.bio.ac.jp/school/judgment</a>				
10 社会貢献	10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3		学校の資源を利用した社会貢献は非常に限定的な形でおこなわれていない。今後は、地域などを意識した形でさらに拡大していきたいと考えている。	立地している場所が必ずしも交通等の便利な場所ではなく、限定的な使用とならざるをえない。	2.5		(森 委員) 近隣の小学校ばかりか、地域の中学校や高校、さらには地域のイベントにも参加して実験や研究の経過をもっとPRすべきだと思います。  (吉岡委員) 学校の地域に開く姿勢は大切にしていきたい。  (加世田委員) コロナの影響が大きい  (有賀委員) コロナ禍で行動が制限されたので、実施が難しかったと思います。  (池田委員) ボランティア活動をしたら、何か評価等で加点になるような制度があったら良いと思います。
	10-37 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	2		学生のボランティア活動については、なかなか自主的なものが出てくることはない。出てきた場合は、それぞれ判断して支援はしたいと考えている。また、教職員側からも、問題提起し、学生が社会性を持つための一助としてボランティアにかかわれるように工夫はしていきたい。	近隣の小学校の生徒へ「理科実験教室」を時期や学年別に本校教職員と学生が実施している。色々な実験を通して理科に興味を持ってもらう企画として、地域と連携を図っている。(2021年度はコロナ感染症拡大防止の観点から開催を停止している)			
11 国際交流	11-38 国際交流に取り組んでいるか	2		留学生の受け入れ並びに海外研修プログラムの実施については積極的に取り組んでいる。 今後は産学連携教育の充実の視点においても海外企業の連携強化を図ってきたい。	コロナウイルスの影響により実際に海外に研修に出られなかったが、代替プログラムとして3か国の各機関とオンラインにて中継をつないだ「国内国際性教育プログラム」を実施した。今後もオンライン等を駆使し、海外に出なくても国際的な感覚が養えるようなプログラムを開発しなくてはならない。	2.3		(森 委員) どうしても留学生に関してはコロナ感染拡大の影響が残りますから、来年に向けて大いに期待します。  (吉岡委員) 立地条件を生かしての取組が望まれる。  (加世田委員) オンラインを使っている実施はよいと思う。  (有賀委員) コロナ禍で行動制限がされているので、オンラインの利用で交流したことはよかったです。  (池田委員) コロナ禍は、大変ですが、当面はオンライン活用しかないと思います。